

平成28年5月10日 改訂

鹿児島大学病院 放射線部で

甲状腺全摘術後に放射性ヨードの治療を受けた患者さんへ

( 臨床研究に関する情報 )

鹿児島大学病院放射線科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた過去の診療記録等をまとめる研究です。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされております。この研究について詳しくお知りになりたい時や、研究への参加を希望されない場合は下記の「お問い合わせ先」へご連絡ください。

【研究課題名】 甲状腺ホルモン低下状態における下垂体 FDG ( $^{18}\text{F}$ -フルオロデオキシグルコース  
fluorodeoxyglucose) 集積についての検討 (後ろ向き研究)

【研究機関】 鹿児島大学病院 放射線部

【研究責任者】 神宮司 メグミ (放射線部 助教)

【研究の目的】

FDG-PET/CTによる治療法は、ブドウ糖が悪性腫瘍に集積しやすいという性質を活かした治療法です。甲状腺癌に対する甲状腺全摘術後における放射性ヨード治療は、甲状腺刺激ホルモンが上昇した状態で行われます。これは、治療の過程で、お薬の投与を一定期間(2~4週間)以上休止しますが、甲状腺ホルモンが低下することで、甲状腺刺激ホルモンの分泌量が上昇していると考えられます。

治療前に、甲状腺刺激ホルモンの分泌量が上昇した状態で撮影し

た FDG-PET/CT の画像と、お薬を飲んでいただくことで甲状腺刺激ホルモンの分泌が正常値以下に抑えられている状態で FDG-PET/CT の画像を比較することで、甲状腺刺激ホルモンの分泌量が、下垂体のフルオロデオキシグルコースの集積に影響するかどうかを調べることを目的としています。

#### 【研究の方法】

以下の二つの群に分けて CT 画像を比較し、下垂体のフルオロデオキシグルコースの集積を検討します。

- 甲状腺ホルモン製剤を休薬して FDG-PET/CT を撮影した患者さん
- 術前または甲状腺ホルモン製剤のお薬の投与により、甲状腺刺激ホルモンが正常値以下の状態で FDG-PET/CT を撮影した患者さん

#### ●対象になる患者さん

平成 23 年 5 月 1 日～平成 27 年 4 月 30 日までに、鹿児島大学病院放射線科で、甲状腺癌に対する甲状腺全摘術後の放射性ヨード治療を受けた患者さんのうち、当院あるいは南風病院で FDG-PET/CT を撮影した患者さんを対象にしています。

#### ●利用するカルテ情報

FDG-PET/CT の撮影画像

甲状腺ホルモンに関する血液検査の結果

#### 【個人情報の取り扱いについて】

研究で使用する診療情報は、患者さんの氏名や住所など、患者さんを直接特定できる個人情報を削除します。また、研究成果は学会や学術雑誌などで発表することがありますが、その際も患者さんを

特定できる情報は使用しません。

【研究の資金源等、関係機関との関係について】

この研究は、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科放射線診断治療学分野の研究費（使途特定寄付金）で実施します。この研究に対する企業等からの寄付は受けていませんので、利害の衝突は発生しません。

【参加を希望しない患者さんへ】

この研究に参加を希望されない場合は、下記問い合わせ先までご連絡ください。あなたに関するデータを削除します。ただし、学術発表などすでに公開された後のデータなど、患者さんまたはご家族からの撤回の内容に従った措置を講じることが困難となる場合があります。

【問い合わせ先】

〒890-8520

鹿児島市桜ヶ丘 8 丁目 35 番地 1 号

鹿児島大学病院 放射線部

助教 神宮司 メグミ

電話 099-275-5417      FAX 099-275-1106